

Release Notes

NITRO-SDK

2007/7/10

任天堂株式会社

Version: NitroSDK-4.1

本パッケージについて

本パッケージはニンテンドーDS（開発コード NITRO）のアプリケーションを開発するための基本ライブラリセットです。NITRO のアプリケーションの開発効率を高めるためにさまざまな API が用意されて、ハードウェアレジスタを抽象化し、視認性の高いソースコードを作成するお手伝いをいたします。またメモリや割り込みなどのシステムリソース管理の標準的な機構をご提供いたします。

パッケージに含まれるもの

- NITRO-SDK ライブラリ（グラフィックス・OSシステム サブプロセッサ用コンポーネント etc）
- オンライン版関数リファレンスマニュアル
- NITRO機能別デモプログラム
- 開発ターゲットの切り替えを統合したmakeシステム

変更点について

NITRO-SDK 4.1 までにリリースされた個々のパッケージでの変更点については、オンライン関数リファレンスマニュアル中の「NITRO-SDK 4.1までの変更履歴」の頁をご参照ください。

主だった変更箇所は以下の通りです。

- CARD ライブラリで、マイクのサンプリング中にカードを抜くとバックライトが OFF になったりシャットダウンしてしまう不具合がありましたので、これを修正しました。
- CARD ライブラリが、16Mb-FLASH に対応しました。
- GX ライブラリで、GX_SetVCount 関数は使用方法によっては LCD に悪影響を及ぼす可能性がありますので、そのような使用ができないよう関数内に制限を追加しました。
- OS ライブラリで、OS_ResetSystem 関数を呼び出しているスレッドのスタックがリセット時に破壊されてしまう可能性があるという不具合がありましたので、これを修正しました。
- MP 通信を使用して親機から子機へファイルシステムを提供する WFS ライブラリを追加しました。
- Wii のネットワーク機能に関する開発キットである RevoEX に収録されている mpdldemo/mpdlntr2rvl デモが配信する子機プログラム wmPadRead-child を追加しました。
- DS ダウンロードプレイ子機プログラムがデバッグ可能になりました。
- makerom が 2Gbit ROM に正式対応しました。
- その他、既存の各ライブラリに修正および機能追加を行いました。